

会津伝統野菜を守るためのポスター

グラフィック分野 北本ゼミ A2201727 梁取 陸

研究の背景

会津地域では18種類の伝統野菜が栽培されている。それらの野菜は会津伝統野菜と呼ばれ古くから親しまれて栽培されていた。しかし会津伝統野菜は在来種と呼ばれるもので形や味にばらつきが出てしまう、そのため大量生産に向かず時代が経つにつれ栽培されなくなってしまう。このままではこれまで継承してきた会津伝統野菜の歴史が絶えてしまうと危惧され、平成14年に山平青果を事務局として会津伝統野菜を守る会が発足された。種の保存のため、料理教室や他県との伝統野菜との交流などの普及活動を行っていた。しかし普及活動に力を注いでいるため、広告物の制作は手付かずになっている。そのため広告物は発足当時に作られたポスターとパンフレットしか存在しない。それらの広告物は掲載されている情報やビジュアルが古く、野菜の種類が現在と異なっているため新しく作り直す必要があると感じた。本研究では会津地域に住む幅広い年齢層に向けた会津伝統野菜のポスター制作を行う。伝統野菜自体の認知度を上げ、身近に感じてもらえるものを制作する。

研究の目的

本研究では、20種類の野菜のポスターを制作する。会津伝統野菜の特色を会津地域に住む幅広い年齢層の人々に認知してもらえるもの、尚且つ子供にでもしっかりと伝わるレイアウトも考える。長い時間をかけて会津の土地に適応し根付いてきた会津伝統野菜1つ1つの魅力を表現し、会津らしさが伝わるものを制作したい。

研究のプロセス

●前期

- ・テーマ設定
- ・会津伝統野菜を守る会への調査(会津伝統野菜の歴史や現状、現在ある宣伝ツールの調査)

●夏季休業中

- ・会津伝統野菜を守る会への再調査
- ・生産農家長谷川純一さんへの取材

●後期

- ・会津伝統野菜を守る会と生産農家再度取材

長谷川さんへの取材で伝統野菜が15種類から18種類に増えていることが判明。

- ・会津葱、慶徳玉ねぎ、とこいろ青豆、かおり枝豆、荒久田茎立、ちりめん茎立の生産農家への取材
- ・今までの取材・調査を元にポスターの制作



会津伝統野菜を守る会への取材



会津ねぎの畑

成果物(完成作品)

現在、会津地域で栽培されている18種類の伝統野菜のポスターを各1点ずつ、会津伝統野菜を全てまとめたポスターを1点、子供に向けたものを1点、計20点のポスターを制作した。メインとなる野菜は透明水彩で描いたものを使用した。透明水彩を用いることにより、伝統野菜自体が持つ個性的で豊かな味や新鮮さ、素朴さを表現した。ポスター全体の構成としてはメインの野菜が活きるように、背景色は野菜のイメージを崩さないような色を使用した。18種類全体のデザインを通して文字の書体と使用する素材は統一した。野菜を現したパターンや野菜の配置はそれぞれの特徴を活かす構成にした。



会津小菊南瓜ポスター



余蒔胡瓜ポスター

(1月16日現在のデザイン)

考察

野菜そのもののもつ特徴を視覚的に表現することが難しかった。今回、ポスターを制作するにあたり、素材として透明水彩を用いてイラストを描いた。しかし水彩画の持つ温かみや素朴さを100%活かし切ることができなかった。さらにアナログ素材を用いてポスターを構成した経験がなかったため透明水彩を生かす構成を考えることに苦戦した。今回、18種類の伝統野菜のポスターを制作した。今までの課題でこなしてきたものとは違い、同系統のものを複数デザインすることの難しさを知った。それぞれがもつ特徴を捉え構成していくことに苦戦したがいろいろな視点から物事を捉えることの大切さを知ることができたと思う。

反省点として、苦手としている取材を後回しにしてしまった。結果、現地に赴くことができず、電話での取材だけになってしまうことがあった。そのため望む情報を的確に収集することができなかった。また最初の段階で完成のイメージをつかめていないまま安直な考えでポスターとパンフレットを制作することを決めてしまい、結果的にパンフレットは制作することができなかった。自らの計画性のなさを分かりつつも修正できなかったことを反省し、今後の活動に活かしていきたい。